

等だつて、腹の中には汗と涙でできたへた方巻の書齋がある。  
 生半化な通辨や、書生ッポーがつべこべしてるのには満足出  
 来ない。こう見えたつて、俺等の眼玉はマルクスだつて、ク  
 ロボトキンだつて、小腸のドン底まで見抜くんだぞ。全體が  
 學者なんて名のつく奴は、今の金持萬能の社會に、賣行のい  
 様加工された代物なんだ。下さらない脳味噌に、博士  
 なんてなレツテルを怙りつけやがつて、社會主義の説明が聞  
 いて呆れらア。憚り様だが、俺等だつて印半天一枚ぬげば、  
 佐倉宗五郎、幡隨院長兵衛てな人間様だ。キリストだつて叩  
 き大工、マホメツトは魚屋さ。社會主義の魂は何百年日に一度

出るか出ないてな御仁でなくて分るか。これからが印半天の  
 キリスト様時代だ。吹けばとぶやうな案山子共に、社會主義  
 といふ即ち社會の改造策が言へた義理か、生意氣にも程があ  
 るんだ。血と涙の人生、苦痛凄惨な人生、戦ひの人生、隆々  
 たる鐵腕と共に炎の如き腸を鍛へた人生、これが人間様とい  
 ふものだ。諾し！人間様が、社會主義を説明する。幾百萬  
 労働者の代表として、レツテル共は土下坐して聞くべし。若  
 し又、俺等の仲間にあやふやな者が居たら、一切の本を焼き  
 棄て、これだけを見ろ、そして百人から千人に、千人から萬  
 人、萬々人に傳へるんだ。